

(研究部門)

互いの人権を尊重し、多様性を認め合い 共に生きる子どもを育てる

大阪市立磯路小学校 田畑・谷元・藪田

1. 研究主題設定の理由

昨年度から国際理解教育の取り組みを各学年で進めてきた。今年度も継続して国際理解教育の研究を進め、自分の思いを言葉にすることで、対話する力を高め、コミュニケーション能力の育成を進めていく。情報社会の中での的確な判断をし、異なる価値観や特性をもつ他者とのコミュニケーションができる子どもを育成していきたい。

2. 研究の趣旨

国際理解教育には、①文化の多様性②ことばとコミュニケーション③世界の人々とのつながり④地球的課題といった学習領域がある。教員自身が子どもたちを見取る中で気づいた課題に対して様々なアプローチを考えることができ、幅広い実践を試すことができる領域と言える。

不透明な未来、解のない世界を生きてゆく子どもたちに、自ら考え、自ら行動する力を育み、対話を通して納得解を導いて、仲間とともに協働していく力を身につけることができるようにしていきたい。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 国際理解教育を通して、対話する力を養い、コミュニケーション能力を高める指導法を工夫する。

- ・授業ではどのような話し合い活動が行われているのか検討する。
- ・解のない問いに対して、子どもたちが自分はどう思うのか考えを整理し、どのように表現しているかを見取る。
- ・最適解、納得解にたどり着くための話し合いがどのように行われているのかを検討する。
- ・互いを知る(低学年)、互いを認め合う(中学年)、互いを支え合う・高め合う(高学年)ための交流ではどのような手立てが工夫されているか検討する。

視点② 『自ら考え、自ら行動する力』を育てるための学習活動を設定する。

- ・子どもの実態に合わせ、その学習活動を通してどんな力を身につけてほしいのかを考え、題材を選定する。
- ・子どもたちの意識付けや行動化に必要な手立てを工夫して指導計画を立案する。
- ・子どもたちが得た知識をもとに、自分たちにできることは何かを考えることができるような題材を設定する。
- ・何ができるかを考え、友だちと協働して行動するために必要な手立てを検討する。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 研究を進める中で、国語科、社会科、生活科、体育科、道徳科、外国語活動などと国際理解教育に関連付けて学習できる教材を考えることができた。
- 2年間の取り組みを通して、学校全体で国際理解教育における様々な学習領域で実践を行うことができた。

(2) 今後の課題

- 国際理解教育のカリキュラムマネジメントをもとに、子どもたちの実態をふまえ、学年の発達段階に応じて「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を明確にした学習展開を考える。
- 「解のない問い」への最適解・納得解を導き出す活動を考える上で、指導者自身が自分たちのあたりまえを揺さぶり、ものの捉え方を見直す機会を研修会などで多く設ける。
- 学年のつながりや教科等のつながりを考慮した国際理解教育の指導計画を整えていく。